



風水害から命を守る!

令和元年に東北地方等に甚大な被害をもたらした台風では、その死者のうち約3割が車での移動中(避難中を含む)に亡くなりました。また、依然新型コロナウイルス感染症が流行している現状では、大人数が集まる避難所へ移動することで、かえって自らの健康を脅かしてしまう恐れがあります。必ずしも避難所へ避難することが正しい選択とは限りません。“もしも”が起こる前に、どのような場合にどこへ避難するか、適切な避難行動を考えておくことが大切です。



昭和57年7月大雨による水害(東成区)



“警戒レベル”と“避難行動”

気象庁や大阪市を含む市町村によって、住民の皆さんの的確に避難行動をとれるよう、避難情報や、防災気象情報等の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いてお伝えしています。また、気象庁等では、各気象情報がどの警戒レベルに相当するかを定めています。各警戒レベルに相当する警報が発令されたから必ず避難しないといけませんが、気象情報が発表された際にはご自身の適切な避難行動を確認し、適宜避難の準備をするようにしてください。

発令時の状況	警戒レベル3 高齢者等避難開始	警戒レベル4 全員避難	警戒レベル5 緊急安全確保
皆さんに していただく 行動	◆ 人的被害の発生する可能性が高まった状況 ◆ 避難に時間を要する人(高齢者、障がい者、乳幼児等)とその支援者は避難する。その他の人は、避難の準備を整える。	◆ 人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況 ◆ 前兆現象の発生など人的被害の発生する危険性が非常に高い状況 ◆ 危険な場所から全員避難する。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難する。 <small>※避難先は、公的な避難場所に限りません。近くの家族や親戚、知人宅への避難について日頃から相談しておいてください。</small>	◆ 既に災害が発生又は切迫している状況 ◆ 命を守るための最善の行動をとる

気象情報と警戒レベル、相当情報の詳細は気象庁のホームページをご覧ください。

防災気象情報と警戒レベル

検索



“もしものとき”にあわてないために

災害が起こったとき、適切な行動をとるためにはあらかじめ避難行動を考えておくことが大切です。自分や大切な人の命を守るために、起こってからではなく今できることを確認し、“もしものとき”にそなえましょう。

STEP1

ハザードマップ等で
お住まいの地域の危険性を確認!

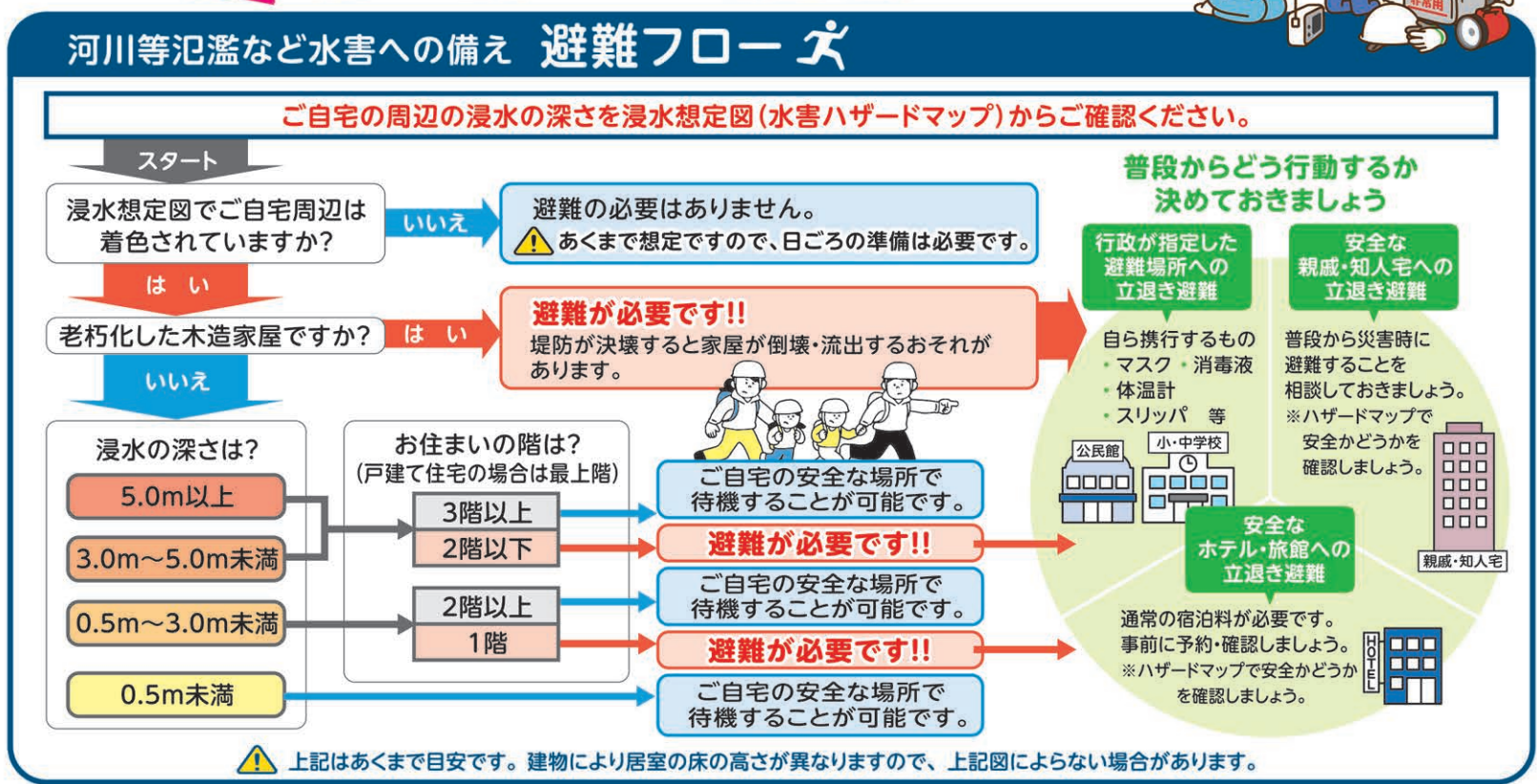


あらかじめ
家族の避難行動
を考えて
おきましょう



STEP2

フローチャート等で
災害ごとに避難のタイミングと避難先を確認!



STEP3

命を守るために、掲載している情報や
マイタイムラインを活用し、日ごろからの備えを確認!

マイタイムラインの様式や
記入方法などの詳細は大阪市の
ホームページをご覧ください



マイタイムラインとは

一人ひとりの家族や生活の状況に合わせた避難行動を考えておくものです。「いつ」「誰が」「何をやるのか」をスケジュールにまとめておくことで、いざというときにあわてずに行動をとる助けになります。

大阪市 マイタイムライン

検索